

「歴史の中の言葉から」

最高学年、受験生になって、早1ヶ月が経ちました。もう3年生のペースに慣れたでしょうか。皆さんと面談をしていると、学習意欲に燃えている人、逆になかなかモチベーションが上がらないという人、気持ちだけが焦っている人・・・などいろいろいるようです。

今回は、受験生として毎日の勉強に、そして最後の総体・総文に向けて部活動に頑張っている皆さんに、世界の歴史上に登場する人物からのメッセージを届けたいと思います。言葉を集めてみると意外なことに気づきました。時代も国もまったく違うはずなのに、不思議なことに、共通する言葉がたくさん出てくるのです。そして、凡人とはかけはなれた能力の持ち主だと思われる人物であっても、発している言葉はいたってシンプルで、私たちにも共感できるものが多々あります。でも、その言葉の背後には、並外れた努力や数多くの経験が刻み込まれているのだと思います。その中からいくつか紹介します。

「できると思えばできるし、できないと思えばできない。これは揺るがない絶対的な法則である」——パブロ・ピカソ（20世紀、スペインの画家）
・・・どうせ無理！と決めつけてしまっただけでは前進も目標達成もできません。

「難しいからやろうとしないのではない。やろうとしないから難しくなるのだ。」——セネカ（紀元前1世紀、ローマ帝国の政治家・哲学者）

「高く登ろうと思うなら、自分の脚を使うことだ。高い所へは、他人によって運ばれてはならない。人の背中や頭に乗ってはならない。」
——ニーチェ（19世紀、ドイツの哲学者）
・・・他人に頼るのではなく、自分の力でやらなければ意味がありません。

「善きことは、カタツムリの速度で動く。」——ガンジー（インド独立運動の指導者）
・・・1930年、イギリスによる塩の専売制への抗議運動として、自分たちで海水から塩を作ろうと、海岸までの約380kmを24日間かけてゆっくりと歩いた「塩の行進」。わずか数人で始まった行進は、数千人という規模になり、非暴力・不服従の大きなデモンストレーションとなりました。この結果、1947年インドは悲願の独立を達成します。

少しやっただけで劇的によくなるとか、驚くような結果がでる特効薬や近道なんてないこと。やる前から、できなかったらどうしよう、無理かもと決めてかからないこと。こつこつ地道に努力すること。自分（自分たち）の力を信じて、前を向いて一歩進むこと。失敗を恐れず、チャレンジすること。歴史上の人物たちが、さまざまなエールを送ってくれます。

思えば1年前の今頃は、学校休校の延長が決まり、皆さんは登校も部活動もできず、外出も友達に会うこともできず、つらい日々を送っていたことと思います。そう考えると、現在、毎日学校で授業を受け、部活動ができることに感謝したいですね。18世紀に活躍したアメリカの外交官フランクリンがこう言っています。

「今日という一日は、明日という日の二日分の値打ちがある。」

今日一日を充実したものにすることが明日につながります。
勉強も部活動も、悔いのないよう全力を尽くして下さい。

（文責 31H担任 能登朋子）

5月の行事予定

日	曜	日 程	行事
1	土		
2	日		
3	月		
4	火		
5	水		総合学力記述模試
6	木	B	
7	金	B	
8	土		(PTA総会中止)
9	日		
10	月	B	緑の羽根募金
11	火	A	
12	水	A	
13	木	B	内科検診
14	金	A	LH(明峰祭)
15	土		
16	日		
17	月	A	
18	火	A	↑ 中間考査
19	水	A	
20	木	A	
21	金	A	↓ 避難訓練
22	土		
23	日		
24	月	B	
25	火	B	総体・総文壮行会
26	水	B	
27	木	B	↑ 県高校総体(前期)
28	金	B	
29	土		
30	日		↓



Keep smiling, keep shining!

笑顔をやさず、輝き続ける生徒の活動を毎日更新中

小松明峰高校